



学ぶ

●産地の

アーカイブ展

NHK連続テレビ小説「スカーレット」にも描かれ、産地として活発であった1960年代から80年代にスポットを当て、信楽焼の技術、情報の宝庫である信楽窯業技術試験場や各窯元に残るアーカイブ(記録)を掘り起こし、やきもの文化を学べます。

育む

●信楽中・中学生カンパニー

信楽中学校の総合文化部と協力し、生徒がさまざまなチャレンジを通じて新たな可能性を“育む”ことを目的に作られた仮想の会社です。

10年後、このまちを担っていく子どもたちが身近な陶器産業を通して、信楽の未来に届けたい「ヒト・モノ・コト」の商品開発や店舗デザインなどに取り組みました。オンライン会場(インターネット)で商品を販売します。

出会う

●アーティストによる信楽の見え方

作家 伊達伸明さん

「お線香の歩き方 - 信楽のトレイル香」

年に一度行われるしがらきまつりの松明奉納コースの形のお線香を作りました。まつり当日には、お線香の火の動きにあわせ、実際に松明奉納コースを歩くライブ配信を行いました。その「信楽トレイル香」の作り方の動画を公開します。



作家 渡部睦子さん

「星見るひとたちと出会う旅、信楽2021」

山の鉱物や200年前の木(亜炭)、現在の木、信楽の焼き物、平安瓦などをマイクロスコープを使い、通常の視点では見ることのできないミクロの信楽を感じてもらえる映像作品を発信します。

『芸術』が生ま出す
多様性と可能性

～芸術×心豊かなまち～

信楽まちなか芸術祭「シガラキマニア2021」
テーマ「ARCHIVES FOR THE FUTURE～未来への模索～」

『芸術』には無限の可能性と、その人がもつ個性や感性が表現されたあらゆる多様性があります。長引くコロナ禍により、これまでとは違う新しい視点や発想、また新しい価値観が必要になりました。皆さんもより多くの芸術に触れ、“新しい豊かさ”を感じる秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。

芸術祭は
新たなステージへ

実行委員長 高畑宏亮さん
(信楽窯業試験場)

×副委員長 森正子さん
(森のスタジオ)

「信楽まちなか芸術祭」は単発イベントではなく、「地域の未来」を地域の人々の手で作り上げていく「まちづくり」の一部として位置付けていきます。次の10年後にさまざまなチャレンジができ、まちに誇りを持ちながら活動できる環境をつくり、次世代をこの地で育てたいと思えるような「選ばれるまち」の実現をめざします。その第一歩

として、愛称を「シガラキマニア」とし、地域のあらゆる分野の物事にスポットをあて「ヒト、コト、モノ」の魅力を学び、自分たちの足元にある「地域の宝」を全国の方に伝え共感を得ることで、沢山のファンを獲得し、まちが活性化すればと願います。

今回はオンラインを使い自宅でも楽しめるような情報を発信します。
森さん「地域の再発見をしていく中で、伝えたい地域の魅力がたくさんあることに気付いた私たちは10年後、20年後も気軽に立ち寄っていただけのサイトを充実させることに意味があると考えます。信楽の魅力を知る、はじめの第一歩としてシガラキマニアオンライン会場をお楽しみください。」

監修 上田篤さん
(京都芸術大学教授)

「芸術祭が始まって11年が経過する中で、やきものと共に育まれた信楽固有の多様な文化とそれらを取り巻く豊かな環境という多くの宝物を発見してきました。これらこそが芸術に他なりません。それらの魅力を知る人(シガラキマニア)を増やし、さまざまなチャレンジを後押しする、そんなみんなが関わることでできるまちづくり活動へと芸術祭を進化させることで、この地に誇りを持ち、次世代を育てたくなるまちをめざします。」

実行委員 北川琢也さん(滋賀銀行)

「地域のイベントが中止や延期となる状況を目の当たりにして、少しでも役に

立ちたいと、実行委員会に参画しました。気づいたことは、信楽には地元の人も知らない「埋もれた宝」が多くあるということ。私はこの「宝」をいかして皆さんと一緒にまちづくりがしたいという思いを強くしました。また、信楽には特に未来を担う若い世代の息吹を力強く感じました。そうした皆さんと一緒に芸術祭を盛り上げたいです。」

シガラキマニア2021の情報はこちらから

WEBサイト

Facebook

Instagram

食べる

●ワングルJAPAN in 信楽

服やジュエリーを身につけるような感覚でお気に入りの陶器製マイカップを持ち歩くムーブメント、それが「ワングルJAPAN」です。中学生カンパニーでワングルカップをデザインしました。オンライン会場で販売します。

●“おいしい”の秘伝書

土と手から生まれるクリエイティブは、この信楽の「食」にも共通しているものがあります。メイン企画は、信楽の郷土料理を再現しながら、信楽の「おいしい」を探ります。信楽焼の器とペアリングもご覧ください。



●シガラキコスメプロジェクト

陶芸に使われる土は、化粧品の材料にもなります。地場素材の新しい可能性と魅力を再発見していただくために実際に化粧品を制作する風景などを公開します。



●ニホンミツバチいなくなって委員会

信楽の山々には日本の在来種であるニホンミツバチが多く生息しています。別名「環境指標生物」とも呼ばれ、「生息する＝環境の豊かさ」と言われています。

幅広い年代の方に興味をもってもらえるようYouTube漫画を公開します。さらに、ニホンミツバチ保護の名人、松井勤さん監修で巣箱づくりの制作の様子など動画公開します。

